

土着天敵のカブリダニ類を温存する りんご園地の下草管理方法

問い合わせ先：岩手県農業研究センター病理昆虫研究室
TEL:0197-68-4424 e-mail:CE0008@pref.iwate.jp

公開

温室効果ガス

農薬

肥料

有機農業

生産 品目：りんご

技術の概要

りんご園地の樹間通路を、乗用モアなどを用いて草丈約8cmで草刈り（高刈り）することで、ハダニ類の土着天敵カブリダニ類を温存できる。

また、樹冠下は病害の発生を助長しないように草刈機などで適宜30cm以下で管理する。

併せて、選択性殺虫剤を中心とした防除を組み合わせると、カブリダニ類の定着が促される。



効果

◎ハダニ類の発生密度を抑制

下草の高刈り管理を継続することにより、カブリダニ類がりんご園地内密度が高まり、殺ダニ剤を散布することなくハダニ類の発生密度を抑制できる。

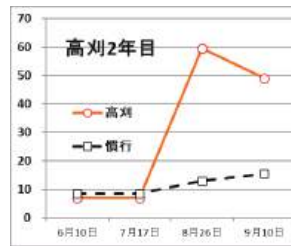


図1 下草でのカブリダニ類の捕獲頭数（頭/分）

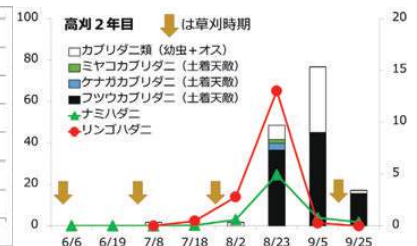


図2 高刈管理した樹上でのハダニ類（左軸）とカブリダニ類（右軸）の発消長（頭/10葉）

導入の留意点

・非選択性殺虫剤の散布時期

カブリダニ類に影響が大きい合成ピレスロイド剤、有機リン剤、カーバメート剤を7月中旬以降に使用しない。

・選択性殺虫剤の農薬コスト

モモシンクイガ等の主要害虫を対象とした選択性殺虫剤による防除体系では、農薬コストを大きく低減できない。

その他（価格帯、改良・普及状況、適応地域）

●改良・普及の状況

・充電式自走無線草刈機を利用した下草管理法を検討中

関連情報

・天敵を主体とした果樹のハダニ類防除体系標準作業手順書
りんご編（（国研）農研機構（2021年））

・りんご園地における土着カブリダニ類保護のための下草管理
（岩手県農業研究センター（2020年））



高温条件でも着色良好な 早生りんご新品種「シナノリップ」

問い合わせ先：長野県果樹試験育苗種部
e-mail:kajushiken@pref.nagano.lg.jp

市販化

温室効果ガス

農薬

肥料

有機農業

その他
（気候変動への対応）

生産 品目：りんご

技術の概要

本品種は、「千秋」×「シナノレッド」の交雑により育成した早生品種である。着色良好で食味が良く、早生品種としては日持ち性が良好である。

育成地（須坂市）における成熟期は8月上旬中で、「つがる」と比べ12日～13日早い。果実は扁円形で果実重は300g程度である。紫紅色にほぼ全面着色し、糖度14%～15%、酸度0.4g/100ml程度で「つがる」より着色良好で濃厚な食味である。常温における貯蔵性は5日程度、冷蔵では1か月程度である。

収穫適期は、満開後100日以降にがく部の地色から判定する。地色の判定は専用の「シナノリップ」地色カラーチャートを用い、地色が指数4～5になった頃を収穫の基準とする。



「シナノリップ」の結実状況

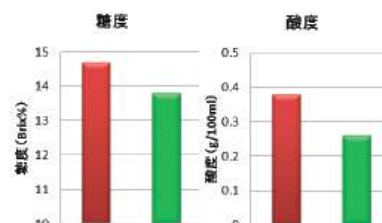
効果

◎高温条件でも着色が良好

高温条件下でも、早生の主力品種「つがる」と比べて着色が良好である。

◎早生種としては日持ち性が良好

常温における貯蔵性は5日程度、冷蔵では1か月程度で、果肉の粉質化は認められない。収穫及び取扱いが高温条件下となるが、早生品種の中では日持ち性が良好である。



左(赤)：「シナノリップ」
右(緑)：「つがる」

「シナノリップ」の
糖度と酸度

導入の留意点

・樹勢の誘導による花芽着生向上

樹勢が強い条件下では花芽着生が劣るので、早く落ち着かせるように誘導する。

・着色管理（葉摘み）と日焼け

収穫期は高温となるため、葉摘み時は日焼けに注意する。

・結実の確保

S遺伝子型はS₁S₃で、「秋映」「シナノゴールド」とは交雑不適合である。

その他（価格帯、改良・普及状況、適応地域）

●普及の状況

長野県内で147ha（2022）

●適応地域

長野県内限定（2022年現在）

（今後の普及状況によっては長野県外でも栽培を検討）

関連情報

新しく普及に移す農業技術（2019年度 第2回）長野県

